

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1113 2012年12月号

「千本山と森林鉄道を訪ねて」

～森林ふれあい推進事業～

11月4日、高知県馬路村魚梁瀬において、森林鉄道と千本山のヤナセスギを訪ねるツアーを実施しました。 (詳細は1頁)



親子杉の幹周りを調査。大人何人分かな？



ヤナセスギを見上げて



釜ヶ谷栈道 (安田町)

「千本山と森林鉄道を訪ねて」

〜森林ふれあい推進事業〜

〈指導普及課〉



一月四日、高知県馬路村魚梁瀬において、昭和

三八年に廃線になった魚梁瀬森林鉄道と千本山林木遺

伝資源保存林のヤナセスギを訪ねるツアーを実施しました。

当日は公募による二三名の参加がありました。参加者は、バスの中で、「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオで森林鉄道の歴史についての予備知識をつけました。

最初は、安田川沿いに残る明神口橋とオオムカエ隧道を見学しました。

今年、馬路村魚梁瀬の「魚梁瀬森林鉄道遺産」をメイン会場に、「全国せまい線路サミットin高知」が開催されていたため、地元の家内人の協力を得ることが出来ず全て職員で案内説明することとなりました。



森林鉄道遺産の説明(隧道)

ツアーの途中で、想定外の質問にも何とか対応しながら、PRポイントを説明すると、参加者からは、先達の施工技術に感嘆の声が上がりました。

次に、魚梁瀬の丸山公園にある魚梁瀬森林鉄道（一周、四〇〇m）で体験乗車を行い、最後に、この日、一番の関心が高かった魚梁瀬のシンボル千本山をめざしました。説明を聞きながら森を散策し、当初は、展望台まで行く予定でしたが、予定時間が大幅にずれ込み、「親子スギ」までの見学となりました。

「今度はゆっくりと展望台まで連れて行って下さいね。」と残念がる参加者もいました。

国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

〈企画調整室〉



一月九日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

マに意見交換を行いました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催しているものです。会議には管内七署（所）の有志協議会の代表世話人である市町村長、新木局長をはじめとする局幹部、林野庁から飛山職員・厚生課長、寺川森林保護対策室長が出席し、協議会会長である上治馬路村長の議事進行により、「国産材利用の促進について」をテー

代表世話人からは、次のような意見・提言等がありました。

- 搬出間伐を進めるに当たりC・D材と呼ばれる単価の安い材の取扱いとして、流通・消費の整備対策が急務である。
- 木材の需要と供給のバランスがとれるような施策が必要である。例えば需要サイドと供給サイドの橋渡しとなるコーディネートターを設けてはどうか。
- シカ食害について、新規の植林地における被害



局長挨拶

このような意見・提言等について、熱心な意見交換が行われました。四国森林管理局としても、これらを踏まえ、「森林・林業再生プラン」の実現に向けて、民有林との更なる連携を図り、「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んでいきます。

が拡大している。国有林職員の派遣を含めた技術提供等を行うなど、民有林と国有林が連携した四国全体での対策が必要である。

○ 集約化や機械の導入を進めているが、急傾斜地では路網の整備は難しいことや技術者の育成など課題も多い。基本的な研修について、指導者の派遣、フィールドとしての

「古事の森」次代への森づくり活動

〈指導普及課〉



開会の挨拶

伊予之二名島古事の森育成協議会では、松山城、道後温泉など木の文化を象徴する伝統的木造建造物の修復材確保を目的に平成一九年度に「伊予之二名島古事の森」の協定を結んでいます。この六回目の森づくり

活動が一月二七日、愛媛

県久万高原町（石鎚山系の中腹）のサル谷山国有林で、一般公募による総勢一六名の参加により実施されました。

まず、育成協議会の深見副会長から、「伝統的木造建造物と、次代に引き継がれるべき文化財の保存と存続のための有意義な作業であり、森の恩恵を感じてください」との挨拶があり、その後作業に取りかかりました。

森づくりの作業として、森林管理のための歩道の修理と、植栽木の生育確認及び補植箇所の手直しを行いました。



作業終了後

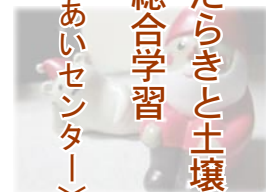
一昨年同様、今年もイノシシの被害とみられる根元の掘り返し被害が発生しており、修復作業をしました。今年も例年より作業時期が遅かったのですが、蜂の巣が発見されたため、作業を早めに切り上げました。来年は、一部保護チューブの撤去もしてはとの意見もあり、育成協議会では、獣害状況と林木の生育の状況を見ながら森林整備に取り組んでいきます。

各地のたより



森林のはたらきと土壌に関する総合学習

〈ふれあいセンター〉



いようでした。

一〇月二日、四万十市立蕨岡小学校の四、五年生一九名を対象に、「森林のはたらき」と「土壌にすむ生物」について出前授業を行いました。

まず、「森林のはたらき」について説明を行うにあたり、子どもたちに山や「森林」という言葉から連想することを聞いてみると、動物、水、川、虫などの動植物をイメージする回答が多く、森林の役割についてはさほど意識していな

一〇月二日、四万十市立蕨岡小学校の四、五年生一九名を対象に、「森林のはたらき」と「土壌にすむ生物」について出前授業を行いました。

まず、「森林のはたらき」について説明を行うにあたり、子どもたちに山や「森林」という言葉から連想することを聞いてみると、動物、水、川、虫などの動植物をイメージする回答が多く、森林の役割についてはさほど意識していな

いるか調べることにしました。

いざ掘り起こしてみると、堅い芯も根菜も見事に分解されてなくなっていました。

こちらはホッと一安心でした。子どもたちも土壌生物のはたらきに感心が深まり、さらに関心を持つてくれたようでした。



土壌生物の観察

三校で木工クラフト

〈ふれあいセンター〉



一〇月は、四万十市立後川中学校、同市立中村南小学校、土佐清水市立幡陽小学校の三校から木工クラフトの支援要請がありました。

八日の後川中学校は一年生八名が対象で、七月にも当センターが出向いて、樹木が吸収する二酸化炭素蓄積量の測定を行っていました。

今回、木工クラフトで樹木が吸収した二酸化炭素が貯えられた木材を活用することで、地球温暖化防止に貢献することになるということの理解を深めてくれることを期待しました。

二〇日の中村南小学校は

木工作品制作中



四年生四五名と保護者が参加しました。

同校では昨年度も実施していますが、今回は保護者にも、森林、林業、自然環境などについての理解を深めてもらう良い機会になると、より多くの保護者が参加できる土曜日の実施となりました。

まず、初めに、「森林のはたらき」について説明を行いました。「昨年よりも